

2 0 2 3 年 度

国立音楽大学 大学院 音楽研究科  
( 修 士 課 程 )

# 学 生 募 集 要 項

国立音楽大学 入試センター

〒190-8520 東京都立川市柏町 5 - 5 - 1

TEL 042-535-9536

<https://www.kunitachi.ac.jp/>

## 本学の基本的理念

自由、自主、自律の精神を以て良識ある音楽家、教育家を育成し、日本および世界の文化の発展に寄与する。

## アドミッション・ポリシー

本課程は、以下のような人を入学者として受け入れる。

1. 本課程での学修に必要な知識や技能を有する人
2. これまでに修得した演奏・創作能力や研究能力をさらなる研鑽を通して向上させたいという意志をもつ人
3. 将来、日本や世界の幅広い分野で、音楽家や教育家として、あるいは音楽による社会活動を通して、社会に貢献する意欲のある人

## カリキュラム・ポリシー

本課程は、演奏・創作における実践能力と理論の研鑽、あるいは音楽学や音楽教育学における研究能力の研鑽のために、下記の方針に従って、教育課程を編成・実施する。

1. 修士課程レベルでの音楽研究のために必要な基礎的な知識や方法を修得する
2. 専攻あるいはコースにおいては、高度な教育研究を行う
3. 声楽、器楽、創作担当教員と音楽学担当教員の連携によって、課題研究の指導を行う
4. 高等教育機関での指導法を修得する

## ディプロマ・ポリシー

本課程は、下記の資質・能力を修得し、それらを総合的に活用できる人に、学位（修士）を与える。学生は所定の科目を修得するとともに、修士論文等（声楽・器楽・作曲の各専攻では修了演奏・修了作品と課題研究、音楽学・音楽教育学では修士論文）の審査および最終試験に合格しなければならない。

1. 音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている
2. 説得力ある演奏を行うことができる
3. 自己の創作理念・理論による創作ができる
4. 自己の演奏や創作について専門的な研究ができる
5. 音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる

# 目 次

1. 本学大学院(修士課程)の目的	2
2. 専攻別募集人員	2
3. 標準修業年限	2
4. 選抜方法	2
5. 応募資格	2
6. 出願手続	2
7. 受験票送付	4
8. 試験科目表	4
9. 試験科目概要および試験課題曲目	5
10. 試験実施期日(予定)および試験場	9
11. 合格発表	9
12. 入学手続	9
13. 国立音楽大学大学院奨学金について	10
14. 器楽専攻鍵盤楽器(ピアノ)コースのレッスン時間について	11
15. 器楽専攻弦楽器コースのレッスン時間について	11
16. 長期履修制度について	11
17. 教育課程の概要	12
18. 学位および資格	26
19. 教員組織	27
20. 2022年度入学試験問題	28

## 入学志願者への注意事項

1. 試験場等に変更が生じた場合は学内(本部棟北側掲示板)に掲示します。試験当日は必ず確認してください。
2. 試験内容に関する電話での問い合わせには応じません。
3. 試験当日の集合時刻を厳守してください。試験開始時刻に遅れた場合は受験資格を失います。
4. 時計のない試験場もあるので、時計(計時機能に限る)をお持ちください。なお、試験場および控室では、携帯電話・スマートフォン等の電源は切ってください。(時計として使用することも認めません。)
5. 提出すべき書類、作品などが指定された日時に遅れた場合は受け付けません。
6. 外国人留学生入学試験は、出願手続、試験科目等、一部別要項に基づいて実施されますので、志願者は別途申し出てください。

## 個人情報の取扱いについて

出願にあたって記入していただいた氏名・住所その他の個人情報は①出願・登録・選考、②学事および学生生活に関する管理、連絡および手続き、③本人および保証人宛に送付する各種書類の発送、連絡とこれらに付随する事務処理を行うために利用します。なお、提出された個人情報は個人情報保護法に則った万全の体制で管理いたします。

## 1. 本学大学院（修士課程）の目的

広い視野に立って精深な学識と技術を授け、音楽の専攻分野における創造、表現、研究能力またはこれに加えて高度の専門性が求められる職業等を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。

## 2. 専攻別募集人員

専攻	コース	人員	専攻	コース	人員	
声楽	オペラ	8	作曲	作品創作	4	
	歌曲			音楽理論		
器楽	鍵盤楽器	16		ソルフェージュ		4
	伴奏			コンピュータ音楽		
	弦楽器		音楽学			
	管楽器		楽器・音響			
	打楽器		音楽療法			
			音楽教育学		4	
			合計		36	

※鍵盤楽器は [ピアノ、オルガン]、弦楽器は [ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ハープ]、管楽器は [フルート、オーボエ、クラリネット、サクソフォーン、ファゴット、ホルン、トランペット、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ] を募集します。

※下記のコース間に限り第2志望の併願を認めます。

\*声楽専攻オペラコースと歌曲コース \*器楽専攻鍵盤楽器（ピアノ）コースと伴奏コース

## 3. 標準修業年限

2年

※音楽学専攻、音楽教育学専攻は、長期履修制度あり（詳細はP.11 項目16.を参照のこと。）

## 4. 選抜方法

入学者の選考は試験によって行います。

## 5. 応募資格

- (1) 大学を卒業した者および大学院入学までに卒業見込みの者。
- (2) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者および大学院入学までに授与される見込みの者。
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者および大学院入学までに修了見込みの者、又はこれに準ずる者。
- (4) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者および大学院入学までに修了見込みの者。
- (5) 文部科学大臣の指定した者。（昭和28年文部省告示第5号）
- (6) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学までに22歳に達する者。

※応募資格(6)該当者については、入学資格審査を行いますので、事前に本学入試センターまでお問い合わせください。入学資格を認められた場合に限り、出願を認めます。

個別入学資格審査申請期間：2022年6月13日(月)～7月20日(水)

## 6. 出願手続

### (1) 出願期間および出願先

出願方法	出願期間	出願先
窓口	2022年10月3日(月)から10月7日(金)まで※ 受付時間：平日午前9時～午後5時	入試センター
郵送	2022年10月3日(月)から10月7日(金)までの期間内 必着。(速達簡易書留またはレターパックプラス。)	〒190-8520 東京都立川市柏町5-5-1 国立音楽大学入試センター TEL 042 (535) 9536

## (2) 出 願 書 類

志願者は、下記の必要書類等を期間内に入試センターに提出もしくは郵送してください。  
郵送の場合は速達簡易書留またはレターパックプラスとし、(1)に示した出願期間内必着とします。

必要書類等	様式	書類記入要領及び注意
1. 入学願書	本学指定の様式	器楽専攻(ピアノ・伴奏以外のコース)、作曲専攻、音楽学専攻および音楽教育学専攻は裏面の該当する欄に必要事項を記入する。写真貼付。
2. 受験票	同上	写真貼付。
3. 写 真	縦4cm×横3cm	正面、上半身、脱帽、背景なし、3ヶ月以内に撮影したものを2枚用意し、1枚は入学願書、1枚は受験票にそれぞれ貼付する。
4. 成績証明書	出身大学等発行のもの	大学等に在学中の者は、前年度までの成績証明書を提出する。合格した場合、卒業時の成績証明書を2023年3月22日(水)までに提出する。 ※本学卒業生は2022年10月3日(月)までに教務課に請求すること。
5. 卒業(見込)証明書	同上	本学学部卒業見込みの者は不要。 ※本学卒業生は2022年10月3日(月)までに教務課に請求すること。
6. 応募許可書	様式自由	現に公職、会社等に服務義務のある者は所属長の応募許可書を必ず添える。
7. 入学検定料振込金受付証明書貼付票(入学願書裏面)	本学指定の様式	下記、(3)入学検定料の項参照。銀行収納印を受けた振込金受付証明書を貼付する。
8. 受験票、入試日程表等返送用封筒	同上	出願者が本年10～11月中に居住している住所、あるいは発送物が確実に届く日本国内の住所、並びに出願者の氏名を明記する。(切手344円分を貼付する。)
9. 声楽受験曲副票	同上	声楽専攻のみ提出。
10. ピアノ受験曲目届	同上	器楽専攻鍵盤楽器(ピアノ)コースと伴奏コースのみ提出。
11. 成績概要送付用封筒	長形3号	住所、氏名を明記。切手不要。志願者が各自で準備する。詳細は次頁参照のこと。
12. 奨学金申請書	本学指定の様式	「国立音楽大学大学院奨学金」を希望する者は願書の所定欄に提出の有無を記入の上、申請書を提出すること。(P.10参照)
13. 長期履修申請書	本学指定の様式	長期履修制度の利用を希望する者は願書の所定欄に提出の有無を記入の上、申請書を提出すること。(P.11参照)

※4、5、6の書類について、日本語以外で書かれている場合は、日本語訳(書式自由)を添えてください。

## (3) 入 学 検 定 料

2023年度入学検定料 42,000円

※第2志望を併願する場合の追加検定料はありません。

〈納入方法〉

- ①所定の振込用紙を使用し、**銀行振込**とします。
- ②振込用紙の太線内はもれなく記入し、最寄りの銀行窓口より**電信扱**で納入してください。自動振込機による振込はできません。
- ③銀行収納印を受けた**振込金受付証明書**を**入学検定料振込金受付証明書貼付票(入学願書裏面)へ貼付**してください。銀行収納印のないもの、振込金受付証明書以外の貼付等は認められませんので注意してください。
- ④納入期間 **2022年10月3日(月)～10月6日(木)**  
この期間内に銀行収納印を受けた振込金受付証明書のみ有効とします。  
※納入期間最終日に納入する場合は、なるべく午前中に納入してください。  
特に午後2時以降の納入は、当日扱いにならない場合がありますので注意してください。  
※いったん納入された入学検定料は返還いたしません。

《その他の注意》

- ①各提出書類の記入は楷書とし、はっきりとわかりやすく書いてください(消せるボールペンは不可)。

- ②各提出書類に記入する氏名、生年月日は、戸籍と同一のものとしてください。(通称名、呼称は使用できません。)婚姻等により出願書類と各種証明書の氏名が異なる場合は、同一人であることを証明する公文書を添付してください。
- ③出願期間外のものを受付できません。また、提出書類に不備があった場合にも、受付できないことがあるので注意してください。
- ④本人の申出による、出願後の書類の変更・追加・返却には一切応じられません。
- ⑤本学学部を卒業した方は、2022年10月3日(月)までに必要書類の作成を教務課に申し込んでください。(夏季事務取り扱い休止期間に注意してください。)
- ⑥身体に障害等があり、受験に際して特別な配慮を必要とする場合は、出願前に早めに入試センター(042-535-9536)へ申し出て相談してください。

◎入試成績概要の送付

不合格者には入試成績概要を送付しますので、出願書類とともに送付用封筒(住所・氏名を明記。切手不要。封筒サイズは長形3号とします。)を提出してください(P.3 出願書類の11.)。ただし、声楽専攻の一次試験不合格者にはお知らせできません。

7. 受験票送付

出願手続を終えた方には受験票および入試日程表を送付します。

※受験票および入試日程表が10月末日までに届かない場合は、振込金(兼手数料)受取書または書留郵便物受領証(レターパック保管用シールでも可)をもって、入試センターまでお申し出ください。

8. 試験科目表

専 攻	コース	専 攻 科 目	共 通 科 目
声 楽	オ ペ ラ 曲 歌	一次試験 実技 二次試験 実技	(1) 音楽理論(和声) ※作曲専攻作品創作、音楽理論、ソルフェージュの各コースは除く。  (2) 音楽史 ※声楽専攻、器楽専攻は西洋音楽史。作曲専攻、音楽学専攻、音楽教育学専攻は、西洋音楽史または日本音楽史のいずれかを選択する。  (3) 外国語 ※英、独、仏、伊の4か国語のうち1か国語を選択。ただし、作曲専攻コンピュータ音楽コースは英語1か国語を選択する。  注) 声楽専攻は、一次試験合格者のみ共通科目を受験することができる。
器 楽	鍵盤楽器(ピアノ)	実技	
	鍵盤楽器(オルガン)		
	伴 奏	実技(独奏、共演、初見視奏)	
	管 楽 器	実技	
	打 楽 器	初見視奏	
作 曲	弦 楽 器	実技	
	作 品 創 作	作品提出 作曲	
	音 楽 理 論	和声 フーガ	
	ソルフェージュ	和声 実技(自由曲演奏、新曲視唱、新曲視奏、誤奏指摘) 小論文	
音 楽 学	コンピュータ音楽	創作作品提出 筆記 口述	
	音 楽 学	論文等提出 筆記 口述	
	楽 器 ・ 音 響	筆記 口述	
音 楽 教 育 学	音 楽 療 法	研究計画書提出 論文提出 口述	
		研究計画書提出 筆記 口述	

9. 試験科目概要および試験課題曲目

(P.8注意事項も参照すること)

専 攻		試験科目概要および課題曲目
声 楽	オ ペ ラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題曲：モーツァルトのオペラのアリア1曲</li> <li>・自由曲：オペラのアリア3曲 (いずれも原語・原調を原則とし、コンサートアリアは除く)</li> </ul> <p><b>一次試験</b> 自由曲3曲のうち任意のオペラのアリアを1曲歌う (5分以上の曲は途中で切ることがある)</p> <p><b>二次試験</b> (1) 課題曲(モーツァルトのオペラのアリア)を1曲歌う アルトでモーツァルトの適当なオペラのアリアがない場合は、グルック作曲のオペラ「オルフェオとエウリディーチェ」より、オルフェオのアリアでもよい。 (2) 自由曲のうち一次試験で歌った曲を除いた2曲より1曲歌う (曲目は後日指定する)</p>
	歌 曲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題曲：ミサ、オラトリオ、カンタータ等の独唱曲1曲(原語で歌うこと)</li> <li>・自由曲：歌曲4曲(原語で歌うこと)</li> </ul> <p><b>一次試験</b> 自由曲4曲のうち任意の歌曲を1曲歌う (4分以上の曲は途中で切ることがある)</p> <p><b>二次試験</b> (1) 課題曲(ミサ、オラトリオ、カンタータ等の独唱曲)を1曲歌う (2) 自由曲のうち一次試験で歌った曲を除いた3曲より2曲歌う (曲目は後日指定する)</p>
	<b>※オペラコース、歌曲コース共通の注意事項</b>	
		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 二次試験は一次試験合格者のみが受験できる。</li> <li>2. 二次試験の演奏時間は、課題曲・自由曲を合わせて8分以内にまとめること。 (オペラコースは計2曲、歌曲コースは計3曲)</li> <li>3. 二次試験の演奏は、曲の途中で切ることがある。</li> </ol>
器 楽	鍵盤楽器 (ピアノ)	<p>下記(1)及び(2)の各グループよりピアノ独奏用作品を選曲し、30分程度のプログラムを提出する。ただし、(1)あるいは(2)のみのプログラムは不可。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) バロックから古典派までの作品。但し、7分以上とする。</li> <li>(2) ロマン派以降の作品。</li> </ol>
	伴 奏	<p>実技及び初見視奏</p> <p>下記(1)及び(2)の各グループより選曲したプログラムを提出する。ただし、(2)のBを選択した場合は、プログラムの(1)のみを提出する。(3)は当日指定。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 10分程度の任意のピアノ独奏用作品。</li> <li>(2) 下記 A, B, Cのいずれかを選択する。(A, Cは共演、Bはピアノ独奏) <ol style="list-style-type: none"> <li>A. 声楽系①10分から15分程度の任意の声楽作品。(ピアノオリジナル伴奏作品)</li> <li>B. 声楽系② <ol style="list-style-type: none"> <li>(a) W. A. Mozart: Le Nozze di Figaroより(Bärenreiter新全集) 第2幕 No. 11 Cavatina</li> <li>(b) G. Verdi: La Traviataより(Ricordi版) 第2幕 No. 7 Finale II 練習番号27より練習番号32の36小節目まで</li> <li>(c) G. Verdi: La Traviataより(Ricordi版) 第3幕 No. 8 Scena ed Aria 1小節目より40小節目まで</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol> <p>※(a),(b),(c)を全て演奏すること。オーケストラパート(ヴォーカルスコアのピアノパートで構わない)を演奏すること。 ※譜めくりは演奏者自身で行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>C. 器楽系 10分から15分程度の任意の器楽作品。(ピアノオリジナル伴奏作品)</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>(3) 初見視奏 平易なピアノ独奏用小品。予見(3分)の上、視奏する。</li> </ol>
	<b>※鍵盤楽器(ピアノ)コースと伴奏コース共通の注意事項</b>	
		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 鍵盤楽器(ピアノ)コースと伴奏コースは併願できる。</li> <li>2. 伴奏コース(声楽系)と伴奏コース(器楽系)は併願できない。伴奏コースの募集は声楽系・器楽系に分けて行い、入学後はそれぞれのカリキュラムを履修する。入学後の変更は認めない。</li> <li>3. 鍵盤楽器(ピアノ)コース、伴奏コース共に、各課題の中で同一の作曲家による複数の作品あるいは複数の作曲家による複数の作品の組み合わせも可。(次頁へ続く)</li> </ol>

専 攻	試 験 科 目 概 要 お よ び 課 題 曲 目
	4. 鍵盤楽器(ピアノ)コース (1) (2)、及び伴奏コースの (1) は暗譜とするが、伴奏コースの (2) は暗譜の必要なし。 5. ソナタの楽章の抜粋は可。その場合は、演奏する楽章を「ピアノ受験曲目届」に記載すること。 6. 変奏曲の抜粋は不可。 7. 繰り返しは自由とする。 8. 出版されている作品に限る。内部奏法を用いた作品は不可。 9. 時間の都合により、演奏をカットすることがある。 10. 伴奏コースの (2) のA、Cの共演者は志願者が依頼し、試験に同伴する。また、共演の楽器は原則として、共演者が持参すること。 11. 事前に試験曲の楽譜の提出を求める場合がある。
鍵盤楽器 (オルガン)	J.S.バッハ：トッカータとフーガ ヘ長調 BWV540 注：楽譜を見てもよい。
器 楽  弦 楽 器	【ヴァイオリン】 (1) パガニーニ：24の奇想曲から任意の1曲 (2) ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61 第1楽章 (カデンツァ：ヨアヒム又はクライスラー) チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35 第1楽章 ブラームス：ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77 第1楽章 (カデンツァ：ヨアヒム) メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64 第1楽章 シベリウス：ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47 第1楽章 プロコフィエフ：ヴァイオリン協奏曲 第1番二長調 作品19 第1、第2楽章 プロコフィエフ：ヴァイオリン協奏曲 第2番ト短調 作品63 第1楽章 バルトーク：ヴァイオリン協奏曲 第2番 第1楽章 ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲 第1番ト短調 作品26 第1楽章 (1)、(2)から各1曲の計2曲を演奏すること。 【ヴィオラ】 (1) ブラームス：ヴィオラ・ソナタ ヘ短調 作品120-1 (2) ブラームス：ヴィオラ・ソナタ 変ホ長調 作品120-2 (3) ヒンデミット：ヴィオラ・ソナタ ヘ長調 作品11-4 (1)~(3)のうち任意の1曲 【チェロ】 (1) J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲 第3番 ハ長調 BWV 1009 (2) J.ハイドン：チェロ協奏曲 二長調 作品101 (3) ドヴォルザーク：チェロ協奏曲 口短調 作品104 (1)~(3)のうち任意の1曲 【コントラバス】 (1) クーセヴィツキー：コントラバス協奏曲 (2) ヴァンハル：コントラバス協奏曲 二長調 (3) ボッテシーニ：コントラバス協奏曲 第2番 口短調 (1)~(3)のうち任意の1曲 【ハープ】 (1) 古典曲(C.P.E.バッハ作曲『ソナタ』の1楽章、ヘンデル作曲『協奏曲』の1楽章) (2) ①フォーレ：アンプロンプチュ ②シュポアー：ファンタジー op.35 ③ピエルネ：アンプロンプチュ カプリス ④ニーノ・ロータ：サラバンドとトッカータ ⑤ヒンデミット：ソナタ ⑥グランジャーニ：ラプソディー (1)を1曲および(2)より1曲の計2曲を演奏すること。
管 楽 器	【フルート】 次の演奏、および初見視奏。 (1) モーツァルト：フルート協奏曲 ト長調 K. 313 注：演奏は暗譜とする。 (2) ①ベリオ：セクエンツァ ②カルク・エラート：ソナタ“アパッショナータ”嬰ヘ短調 op.140 ③カルク・エラート：シャコンヌ op.107-30 ①~③のうち任意の1曲 注：暗譜は任意とする。



専 攻		試 験 科 目 概 要 お よ び 課 題 曲 目
器 楽	管 楽 器	<p>以下の楽器は、次の課題曲と自由曲(無伴奏曲も可)の2曲の演奏、および初見視奏。</p> <p><b>【オ ー ボ エ】</b> モーツァルト：オーボエ協奏曲 ハ長調 K. 314</p> <p><b>【クラリネット】</b> (1) モーツァルト：クラリネット協奏曲 イ長調 K.622 (2) ドビュッシー：クラリネットのための第一狂詩曲 (1)、(2)のうち任意の1曲</p> <p><b>【サクソフォーン】</b> グラズノフ：サクソフォーン協奏曲</p> <p><b>【ファゴット】</b> (1) モーツァルト：ファゴット協奏曲 変ロ長調 K. 191 (2) ウェーバー：ファゴット協奏曲 ヘ長調 作品75 (1)、(2)のうち任意の1曲</p> <p><b>【ホ ル ン】</b> (1) モーツァルト：ホルン協奏曲 第2番 変ホ長調 K. 417 (2) R.シュトラウス：ホルン協奏曲 第1番 変ホ長調 (3) ノイリンク：バガテル (1)~(3)のうち任意の1曲</p> <p><b>【トランペット】</b> J. ハイドン：トランペット協奏曲 変ホ長調</p> <p><b>【トロンボーン】</b> テナートロンボーンの場合 トマジ(Henri Tomasi)：トロンボーン協奏曲 バストロンボーンの場合 ネリベル(Vaclav Nelhybel)：バストロンボーン協奏曲</p> <p><b>【ユーフォニアム】</b> J. ホロヴィッツ：協奏曲 (Novello)</p> <p><b>【チ ュ ー バ】</b> R. ヴォーン・ウィリアムズ：チューバ協奏曲 (OXFORD UNIVERSITY PRESS)</p>
	打 楽 器	<p>次の(1)または(2)を選択して演奏、および初見視奏。</p> <p>(1) ジョリヴェ：打楽器とオーケストラのための協奏曲 (2) 次の①②を両方演奏すること。 ①クレストン：マリンバとオーケストラのための協奏曲 ②ドゥレクリューズ：12のエチュード (小太鼓のための) *②は1~4の中から当日1曲指定。 *②に限り暗譜は任意とする。</p>
作 曲	作品創作	<p>(1) 作品提出 (楽器編成の異なる2曲の楽譜を提出すること) ※ (2) 与えられた音列によるピアノ曲 (様式は任意) の作曲 [6時間] ※作品は2022年10月17日(月)午後5時までに入試センターへ提出すること。 郵送の場合は必着。データ(アップロード)での提出を希望する場合は9月30日(金)までに入試センター (nyugaku@kunitachi.ac.jp) へ連絡すること。</p>
	音楽理論	<p>(1) 和声 [3時間] (2) 与えられた主題によるフーガの作曲 [6時間]</p>
	ソルフェージュ	<p>(1) 和声 [3時間] (2) 実技 (a) 自由曲演奏 (4~5分程度) * (b) 新曲視唱 (c) 新曲視奏* (d) 誤奏指摘 (ピアノ演奏による) * (a)、(c)は原則としてピアノによる。予め申請し、許可された他の楽器でも可。(この場合は早めに入試センターへ問い合わせの上、2022年9月30日(金)までに申請を行うこと) (3) 小論文 [1時間]</p>

専 攻		試験科目概要および課題曲目
作 曲	コンピュータ音楽	(1) 創作作品提出 ※ (2) コンピュータ音楽筆記試験（論文を含む） [90分] (3) 口述試験（提出作品に関するプレゼンテーション15分を含む） [約30分] * (3)のプレゼンテーションでは、音響映像再生機器（CD、DVD、Blu-ray、および持ち込みPC接続）の使用が可能。楽器演奏は不可。
	※作品は2022年10月17日(月)午後5時までに入試センターへ提出すること。郵送の場合は必着。データ(アップロード)での提出を希望する場合は9月30日(金)までに入試センター(nyugaku@kunitachi.ac.jp)へ連絡すること。	
音 楽 学	音 楽 学	(1) 論文提出 音楽学の専門的テーマによる論文(12,000字以上、既発表のものでも可。要旨を添付すること。) ※ (2) 筆記試験 音楽美学、音楽民族学、西洋音楽史、日本音楽史から1科目選択 [90分] (3) 口述試験 [約30分]
	楽器・音響	(1) 成果提出 楽器学、楽器音響学、音楽音響学のいずれかの分野の専門的テーマによる論文(製作楽器を含めてもよい。12,000字以上、既発表のものでも可。要旨を添付すること。) ※ (2) 筆記試験 楽器学、楽器音響学、音楽音響学から1科目選択 [90分] (3) 口述試験 [約30分] * (1)の提出論文に製作楽器を含める者は、口述試験当日に楽器を持参すること。(大型楽器など車での入構が必要となる場合は、出願時に申し出ること。)
	音楽療法	(1) 研究計画書提出 研究テーマ、テーマ設定の理由、先行研究の要約、研究方法、研究のおおまかな見通しなど (A4版1～2枚：2,000字程度) ※ (2) 論文提出 指定された音楽療法関連書籍に関する評論(A4版4枚：6,000字程度) 書籍タイトル等は10月上旬に出願者に連絡する ※ (3) 口述試験 [約20分]
	※論文、研究計画書等は2022年10月17日(月)午後5時までに入試センターへ提出すること。郵送の場合は必着。	
音 楽 教 育 学	/	(1) 研究計画書提出 研究テーマ、テーマ設定の理由、先行研究の要約、研究方法、研究のおおまかな見通しなど (A4版1～2枚：2,000字程度) ※ (2) 筆記試験 [90分] 音楽教育に関する「基礎的な知識・理解」および「思考力・判断力・表現力等」を問う記述問題 (3) 口述試験 [約30分] 提出書類および筆記試験で記述した内容を中心とした口頭試問
		※研究計画書は2022年10月17日(月)午後5時までに入試センターへ提出すること。郵送の場合は必着。
各 専 攻 共 通 科 目		(1) 音楽理論(和声) [60分] (作曲専攻作品創作、音楽理論、ソルフェージュの各コースは除く) (2) 音楽史 [60分] 声楽専攻、器楽専攻は西洋音楽史。作曲専攻、音楽学専攻、音楽教育学専攻は西洋音楽史または日本音楽史のいずれかを選択する。 (3) 外国語(英、独、仏、伊の4か国語のうち1か国語。ただし、作曲専攻コンピュータ音楽コースは英語1か国語とする) ※辞書の持込可(電子辞書は不可) [60分]

### 注意事項

1. 器楽曲で楽章の指定がないものは、その曲の全楽章を演奏すること。ただし、試験当日に演奏楽章を指定したり、演奏を中断することもある。
2. 演奏は暗譜で行うこと。(特に指示のある場合や、器楽専攻伴奏コースの課題曲(2)は除く。)
3. 伴奏はピアノ伴奏のみとし、伴奏者は出願者が同伴する。
4. 伴奏者や器楽専攻伴奏コースの共演者は、同入学試験の出願者でない者、他の出願者の伴奏者(共演者)でない者が望ましい。(試験日・時間が重なっても考慮はできない。)
5. 出願後、受験曲や志望する専攻の変更は認めない。
6. 指定された課題曲以外を演奏した場合は失格となるので、注意すること。
7. 受験曲の選曲に際して、不明な点がある場合は、早めに入試センターへ問い合わせること。

## 10. 試験実施期日（予定）および試験場

月 日	専攻（コース）・試験科目	
11月11日(金)	声楽（歌曲）	一次試験（実技）
	声楽（オペラ）	
	器楽（ピアノ）	実技
	作曲（音楽理論／ソルフェージュ）	和声
11月12日(土)	※声楽一次試験合格発表・声楽二次試験受験曲目発表(午後2時、本部棟北側掲示板)	
	器楽（ピアノ／伴奏）	実技
	作曲（作品創作／音楽理論）	作曲／フーガ
	作曲（ソルフェージュ）	小論文／実技
	作曲（コンピュータ音楽）、音楽学（音楽学／楽器・音響）、音楽教育学	筆記
	作曲（コンピュータ音楽）	口述
	音楽学（音楽学／楽器・音響／音楽療法）	口述
音楽教育学	口述	
11月13日(日)	共通科目（音楽理論／音楽史／外国語）	
11月14日(月)	声楽（オペラ／歌曲）	二次試験（実技）
	器楽（弦楽器／管楽器／打楽器）	実技／初見視奏（管打のみ）
11月15日(火)	声楽（オペラ／歌曲）	
	二次試験（実技）	

※器楽(オルガン)の試験日程（実技および初見視奏）は出願後に通知します。

（ただし上記日程内で行います。）

試験場：国立音楽大学（東京都立川市柏町5-5-1）

（注意）○試験日程詳細については、出願期間後に送付する入試日程表に明記します。

○時間、試験場等に変更が生じた場合は、本部棟北側掲示板に掲示します。

## 11. 合格発表

期 日：2022年11月17日（木） 午前10時

場 所：本部棟北側掲示板および本学Webサイト

（注意）○電話等による問い合わせには応じられません。

○合格者は、受験票を提示の上、合格証および入学手続上必要な書類を受け取っ

てください。郵送を希望の場合は入試センターまであらかじめご相談ください。

合格発表後、一部の専攻(コース)で追加募集を行います。詳細は決定次第、本学Webサイトでお知らせします。（試験実施は2023年2月を予定。）

## 12. 入学手続

2022年11月22日(火)～12月7日(水)の間に下記を提出(納入)してください。ただし、奨学生候補者は採否通知を確認した後、手続きを行ってください。（詳細は次項13.を参照のこと。）また、長期履修制度利用者の納入については、P.11項目16.をご参照ください。

A. 学費（下記金額は2023年度のもので。）

（単位：円）

費目区分	本学卒業生		他大学卒業生	
	1年次	2年次	1年次	2年次
入学金	150,000	—	300,000	—
授業履修費	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
施設設備費	250,000	250,000	250,000	250,000
維持運営費	150,000	150,000	150,000	150,000
合計	1,650,000	1,500,000	1,800,000	1,500,000

※2年次には同調会入会金20,000円が上記金額に加わります。（在学中1回のみ）

ただし、本学卒業生の方は除きます。

※学費は2回分納となります。

		本学卒業生	他大学卒業生
1 年 次	前期分 (入学手続時)	900,000	1,050,000
	後期分 (10月末日)	750,000	750,000

※「国立音楽大学大学院奨学金」受給者の学費は、13.(4)奨学金受給後の学費を参照のこと。

B. 誓約書 (保証人連署)

C. 個人情報等の取扱いに関する同意書 (保証人連署)

※2022年12月7日(水)までに提出してください。

- (注意) 1. 期日内に手続きをしない場合は、棄権したものとみなし、入学を許可しません。
2. 上記提出物に加えて、別途提出が必要な書類があります。詳細は2月中旬頃に郵送でお知らせします。新年度の日程等もその時に通知する予定です。
3. 入学手続きを完了した者が入学を辞退する場合は、返還申し込み期日 (2023年2月17日(金)) までに、事由を明らかにして所定の手続をしてください。既納の学費の内、入学金を除いた金額を返還します。手続についての詳細は、入試センター(042-535-9536)までお問い合わせください。
- なお、返還手続きの最終期限は2023年3月31日(金)ですが、新年度の授業運営準備のため、原則として2023年2月17日(金)までに手続きを行ってください。

### 13. 国立音楽大学大学院奨学金について

奨学金を希望される方は、下の各項を参照の上、出願時に別紙申請書を提出してください。

#### (1) 内容

- ①入学時の成績優秀者に対して、授業履修費 (前項の表を参照) のうち1,000,000円を奨学金として支給します。(原則として返還の義務なし。)
- ②採用枠は、各専攻より1名以内とします。ただし器楽専攻については、鍵盤楽器 (含、伴奏) と弦管打楽器に分けますので、最大6名となります。

#### (2) 審査

- ①一次審査: 各専攻より1名以内を奨学生候補者として選抜。
- ②二次審査: 面接により決定。

#### (3) 手続

- ①「国立音楽大学大学院奨学金申請書」に必要事項を記入の上、出願書類と共に提出してください。  
※この時点において、申請書が提出されない場合は奨学金の希望をしないものとみなします。
- ②一次審査の合格者の発表: 本奨学生候補者は入試合格者発表時(11月17日)に掲示でお知らせします。
- ③二次審査(面接)日: 11月22日(火)午後6時~開始予定。
- ④奨学生発表: 11月25日(金)※合否に関わらず、郵送・掲示にてお知らせします。
- ⑤入学手続: 11月22日(火)~12月7日(水)  
※奨学生候補者は、採否通知が郵送されてから手続きをしてください。

(4) 奨学金受給後の学費(下記金額は2023年度のものです。)

(単位：円)

費目区分	本学卒業生		他大学卒業生	
	1年次	2年次	1年次	2年次
入学金	150,000	—	300,000	—
授業履修費	100,000	100,000	100,000	100,000
施設設備費	250,000	250,000	250,000	250,000
維持運営費	150,000	150,000	150,000	150,000
合計	650,000	500,000	800,000	500,000

※2年次には同調会入会金20,000円が上記金額に加わります。(在学中1回のみ)

ただし、本学卒業生の方は除きます。

※学費は2回分納となります。(奨学金受給後の金額)

		本学卒業生	他大学卒業生
1年次	前期分(入学時)	400,000	550,000
	後期分(10月末日)	250,000	250,000

14. 器楽専攻鍵盤楽器(ピアノ)コースのレッスン時間について

器楽専攻鍵盤楽器(ピアノ)コースの入試成績上位3名程度の合格者は、入学後、1年次のレッスン時間を105分とします(通常1年次60分、2年次105分)。

15. 器楽専攻弦楽器コースのレッスン時間について

器楽専攻弦楽器コースの入学試験において、特別に優秀と認められた合格者は、入学後、1年次のレッスン時間を90分とします(通常1年次45分、2年次90分)。

16. 長期履修制度について

長期履修制度を希望される方は、下の各項を参照の上、出願時に所定の申請書のほか必要書類を提出してください。

(1) 主旨

本研究科の標準履修期間である2年を、原則2年分の学納金で、4年まで延長することができます。

※音楽学専攻または音楽教育学専攻に限ります。

(2) 対象者

次のア～ウのいずれかに該当する方。

ア 学校や会社等に勤務している方(非常勤、非正規雇用を含む。)

イ 介護等の家庭の事情で2年間での履修が困難な方

ウ その他、やむを得ない事情を有すると本研究科が認める方

(3) 認める修業年限

入学時より3年または4年。ただし、休学期間は算入されません。

(4) 提出書類

①長期履修制度申請書(所定用紙※)

※本学公式Web(<https://www.kunitachi.ac.jp/>)より所定用紙をダウンロードしてください。

TOPページ→入学案内→大学院 入学案内→修士課程ページ内

②在職証明書又は在職が確認できる書類(職業を理由に長期履修制度を申請する場合)

③事由を証明する書類

例：介護の場合、住民票+要介護認定書の写しなど

④その他、本研究科が必要と認める書類

(5) 手続

①長期履修制度申請書等、必要な書類を出願書類と共に提出してください。

※この時点において申請書が提出されない場合は、長期履修制度を希望しないものとします。(出願後の申請は認めません。)

②入試期間中に面接審査を実施します。(日程は出願後に通知します。)

※なお、長期履修制度の利用と合否判定は無関係です。

③許可者発表

入試合格者発表時(11月17日)に個別にお知らせします。

#### (6) 学納金

入学金を除く授業履修費、施設設備費、維持運営費の標準修業年限(2年)分の額を、長期履修期間(3年または4年)で割った額を年度ごとに、納入していただきます。

詳細は経理課(042-535-9504)までお問い合わせください。

※割った際に、端数が出た場合は、初年度にその端数を合算して納入していただきます。

※入学金は初年度に納入していただきます。

### 17. 教育課程の概要

1. 専攻における充実したレッスン等の個人指導はもとより、専門に関わる少人数のさまざまな専門研究、専門演習といった科目によって、プロフェッショナルな演奏、創作の追求ができます。
2. 声楽専攻・器楽専攻・作曲専攻では、「研究法Ⅰ」「研究法Ⅱ」「研究法Ⅲ」が開講され、課題研究報告の作成に取り組みます。(作曲専攻(作品創作コース)は「研究法Ⅰ」「研究法Ⅱ」までの開講)
3. ユニークな授業は「テーマ別演習」です。ここでは専攻領域を横断する多様なテーマに応じた重点的な研究を行います。  
この「テーマ別演習」は2年間を目途に研究を推進し、その後随時新たな研究テーマが加えられる予定です。
4. 音楽研究所の提供する専門研究に「プロジェクト科目」として参加・履修できます。

#### ○共通科目

必修	研究法ⅠⅡⅢ(声楽・器楽・作曲専攻(作品創作コースは、研究法ⅠⅡ)のみ)、テーマ別演習AⅠⅡ・BⅠⅡ
選択	エディション研究AB、指導法、プロジェクトAⅠⅡ・BⅠⅡ

#### ○他専攻分野履修可能科目

選択	作品研究(器楽)ⅠⅡ、チェンバロ演習、原典講読(鍵盤楽器)ⅠⅡ、ピアノ教育研究ⅠⅡ、音楽テクノロジーⅠⅡ、スコア・リーディングⅠⅡ、フーガ実習ⅠⅡ、和声実習ⅠⅡ、古典対位法ⅠⅡ、原典講読(作曲)ⅠⅡ、楽曲分析ⅠⅡ、ソルフェージュ特殊研究ⅠⅡ、作曲家作品研究ⅠⅡ、ライブ・エレクトロニクス実習、Research in EnglishⅠⅡ、音楽学研究法Ⅰ～Ⅳ、音楽美学研究AB、音楽民族学研究AB、西洋音楽史研究AB、アジア音楽史研究AB、日本音楽史研究AB、楽器学研究AB、楽器音響学研究AB、音楽教育内容論AB、音楽教育方法論AB、音楽教育実践演習AB、音楽教育教材研究AB
----	---

#### ○修了要件外科目

器楽専攻 (鍵盤楽器コース)	器楽系伴奏研究Ⅰ～Ⅳ、声楽系伴奏研究(歌曲)、(コレパティツィオン)Ⅰ～Ⅳ
器楽専攻 (伴奏コース)	器楽系伴奏研究Ⅰ～Ⅳ、声楽系伴奏研究(歌曲)、(コレパティツィオン)Ⅰ～Ⅳ 鍵盤楽器ソロ研究AⅠⅡ・BⅠⅡ
器楽専攻 (弦管打コース)	オーケストラA～D

註) 上記以外にも、修了要件外ではあるが、一部の学部科目(選択外国語科目、学部聴講科目等)の履修を認める。科目履修費を別途納める必要はない。

○各専攻必修科目を含め30単位以上を修得しなければならない。

○年度により開講されない科目がある。

以下（次ページ以降含む）のカリキュラム表は、2022年度入学生対象のものです。変更の可能性もあります。

○専攻（コース）科目

〈声楽専攻(オペラコース)〉

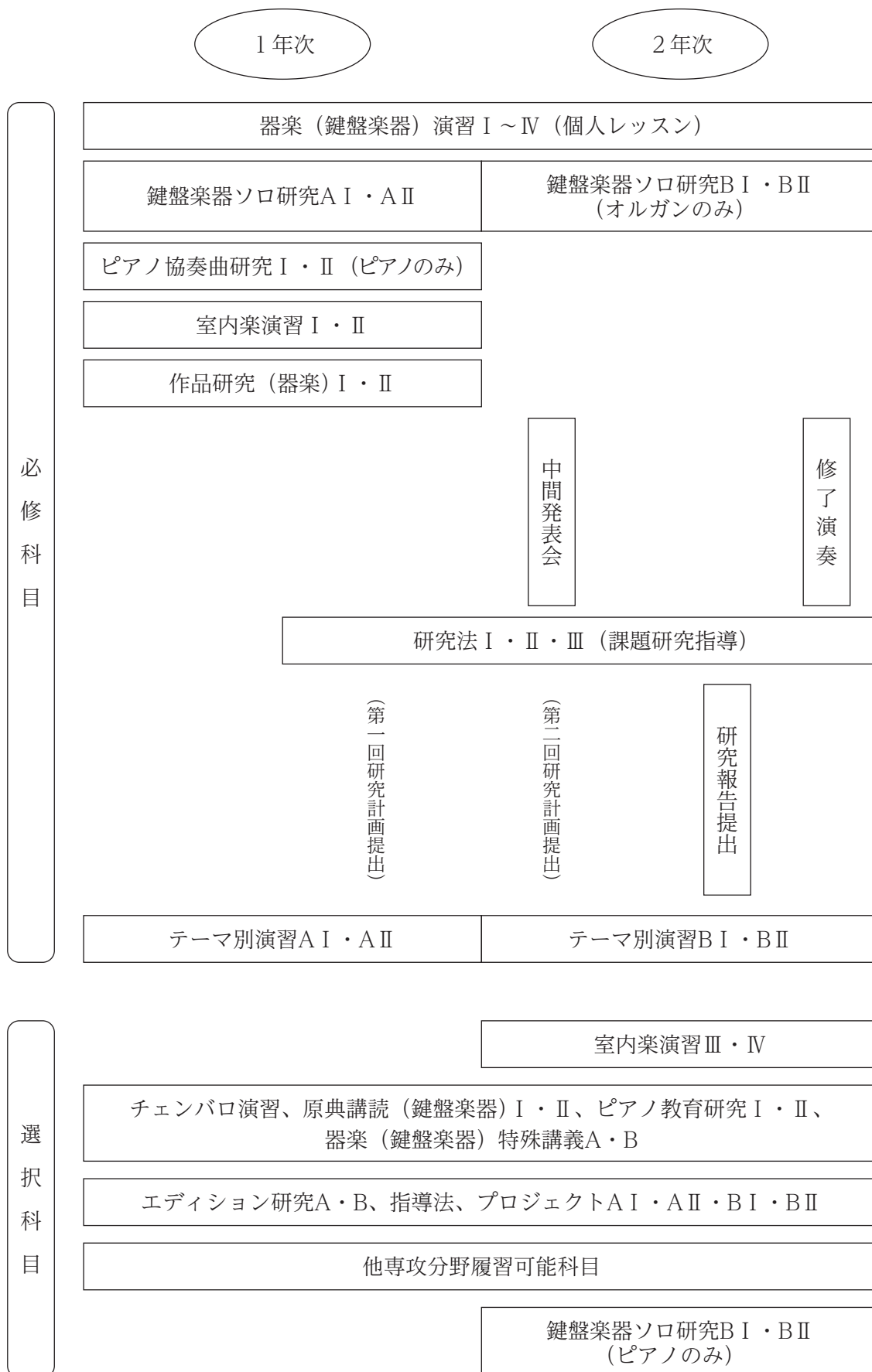
	1年次	2年次	
必修科目	声楽演習 I ~ IV (個人レッスン)		
	オペラ研究 (レパートリー研究) I ~ IV		
	作品研究 (声楽) I・II		
		オペラ研究授業発表会	(大学院オペラ)
			修了演奏
		研究法 I・II・III (課題研究指導)	
選択科目	(第一回研究計画提出)	(第二回研究計画提出)	研究報告提出
	テーマ別演習A I・A II	テーマ別演習B I・B II	
	舞台発音発声法 I・II、舞台表現技術演習 (ボディーテクニック) I・II、 舞台表現技術演習 (身体表現) I・II、舞台表現技術演習 (日舞)、 歌曲研究 (日本語/独語/伊語/仏語) A I・A II・B I・B II、 オラトリオ研究 I・II、重唱研究 I・II、声楽特殊講義A・B		
	エディション研究A・B、指導法、プロジェクトA I・A II・B I・B II		
	他専攻分野履習可能科目		

〈声楽専攻(歌曲コース)〉

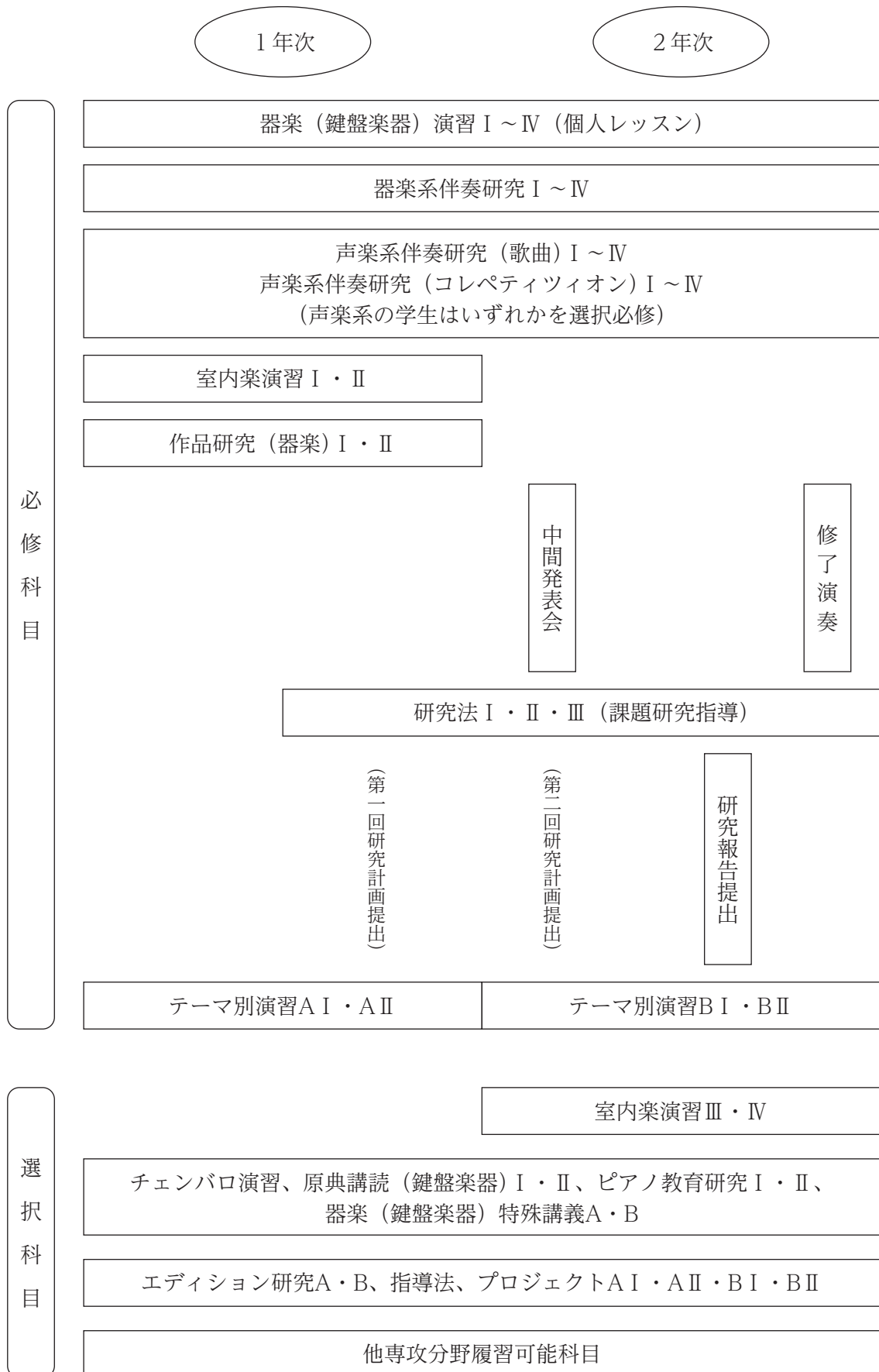
	1年次	2年次	
必修科目	声楽演習 I ~ IV (個人レッスン)		
	オラトリオ研究 I ~ IV		
	作品研究 (声楽) I ・ II		
	(大学院 オラトリオ研究発表会)	中間発表会	(歌曲コース・ オラトリオコンサート)
			修了演奏
	研究法 I ・ II ・ III (課題研究指導)		
	(第一回研究計画提出)	(第二回研究計画提出)	研究報告提出
	テーマ別演習A I ・ A II	テーマ別演習B I ・ B II	
	重唱研究 I ~ IV、歌曲研究 (日本語/独語/伊語/仏語)A I ・ A II ・ B I ・ B II、 オペラ研究 (レパートリー研究) I ・ II、舞台発音発声法 I ・ II、 舞台表現技術演習 (ボディーテクニック) I ・ II、 舞台表現技術演習 (身体表現) I ・ II、 舞台表現技術演習 (日舞)、声楽特殊講義A ・ B		
	エディション研究A ・ B、指導法、プロジェクトA I ・ A II ・ B I ・ B II		
他専攻分野履習可能科目			



〈器楽専攻(鍵盤楽器コース)〉



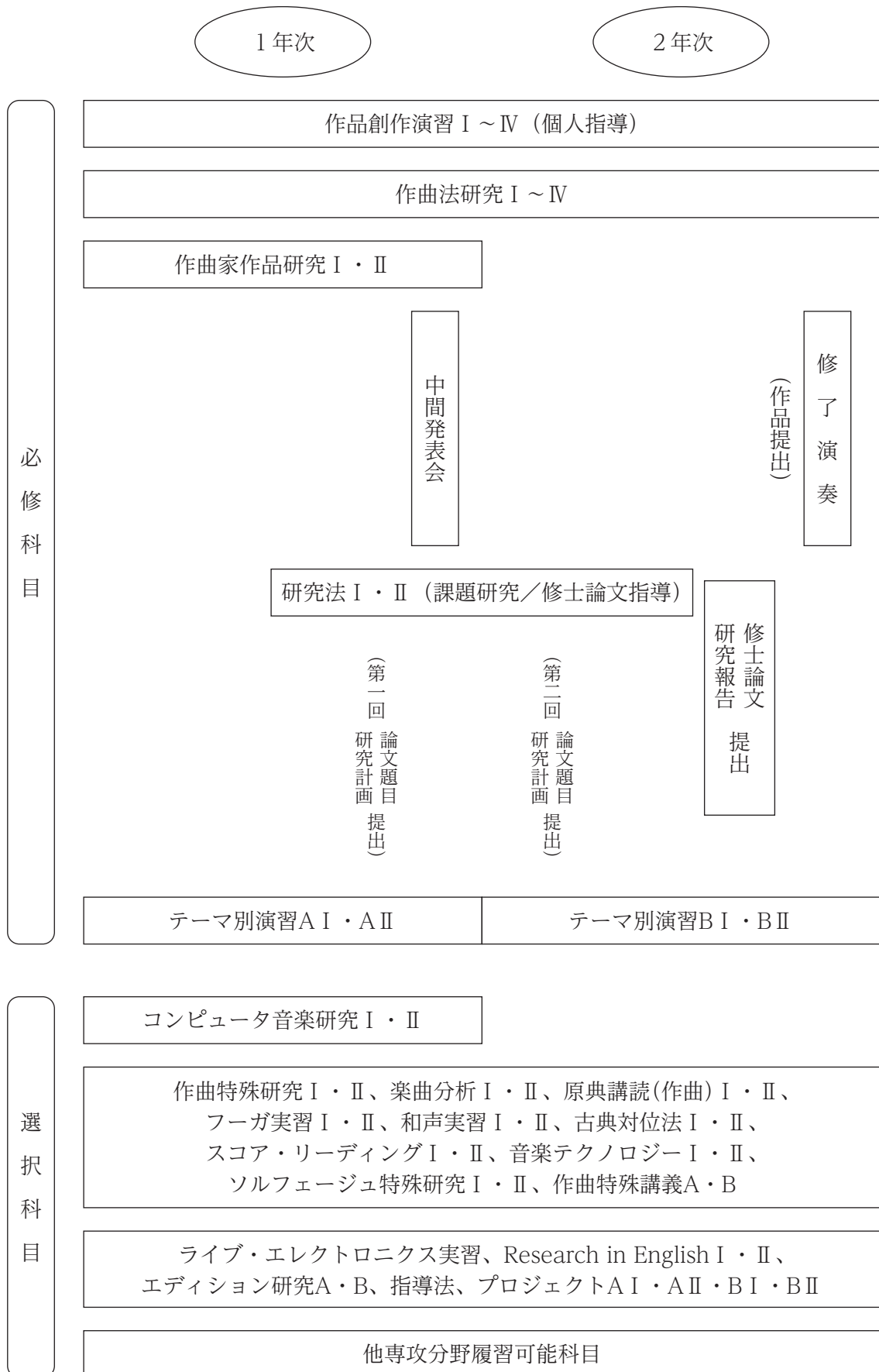
〈器楽専攻(伴奏コース)〉



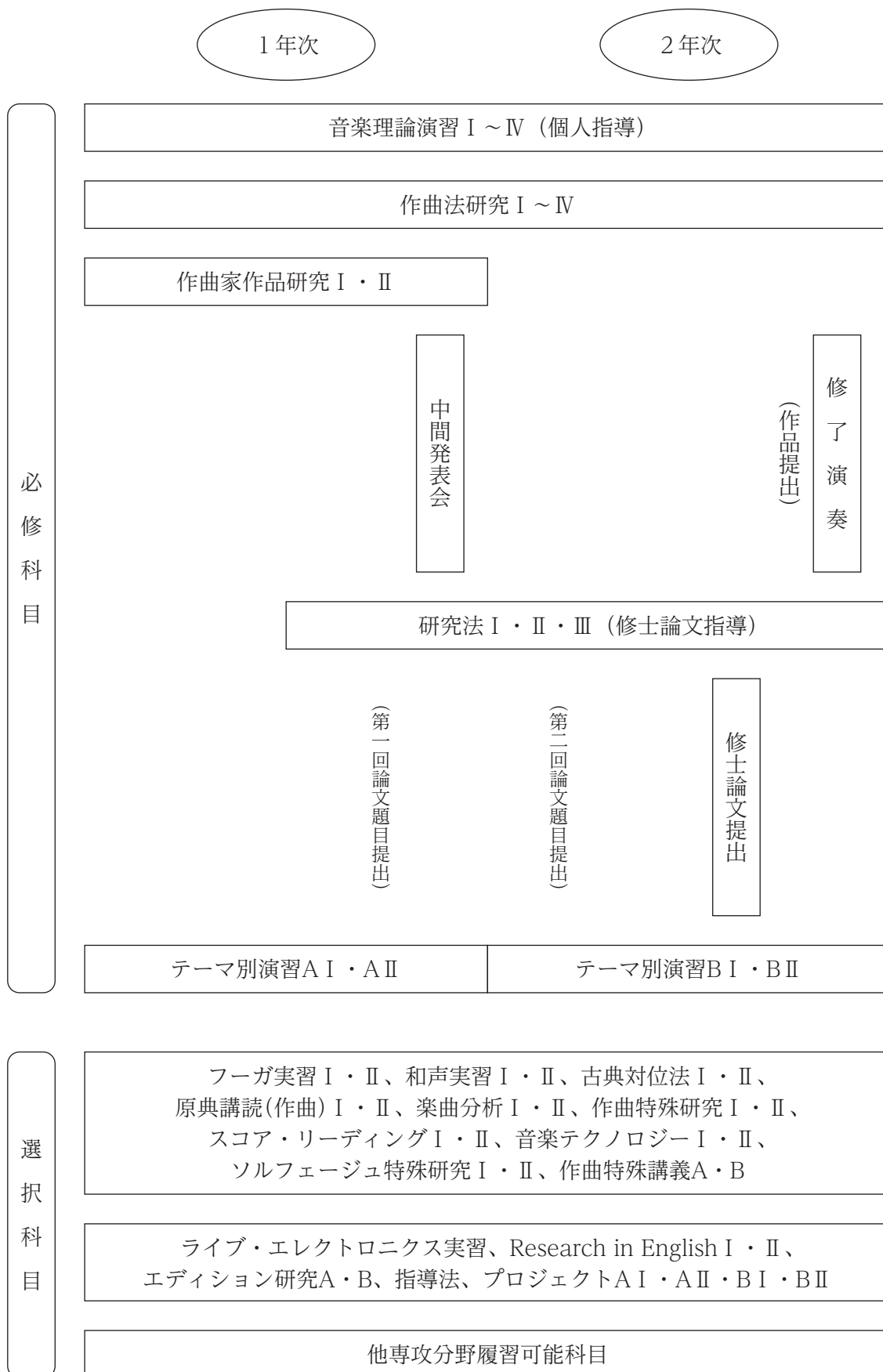
〈器楽専攻(弦管打コース)〉



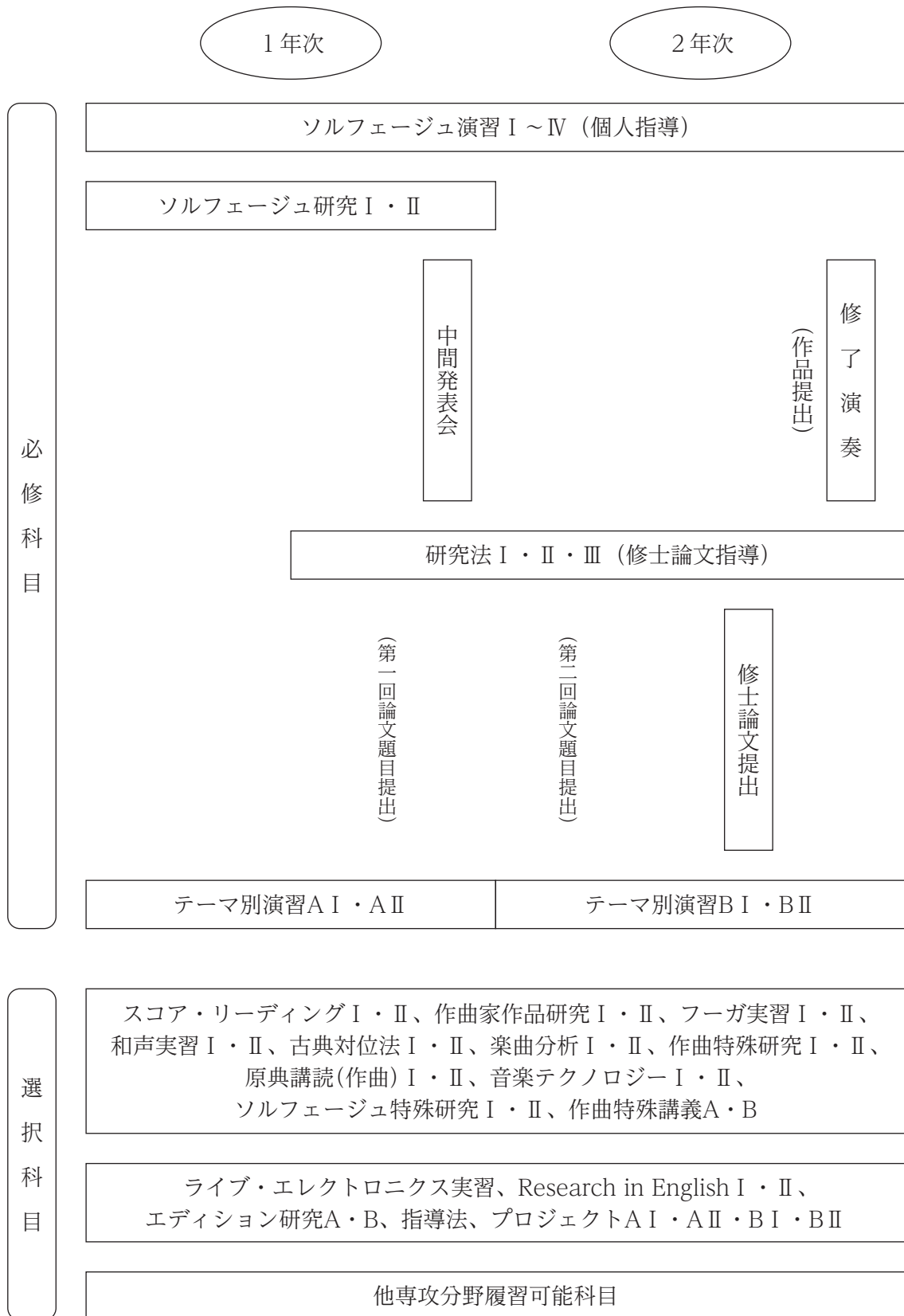
〈作曲専攻(作品創作コース)〉 研究報告か修士論文を選択



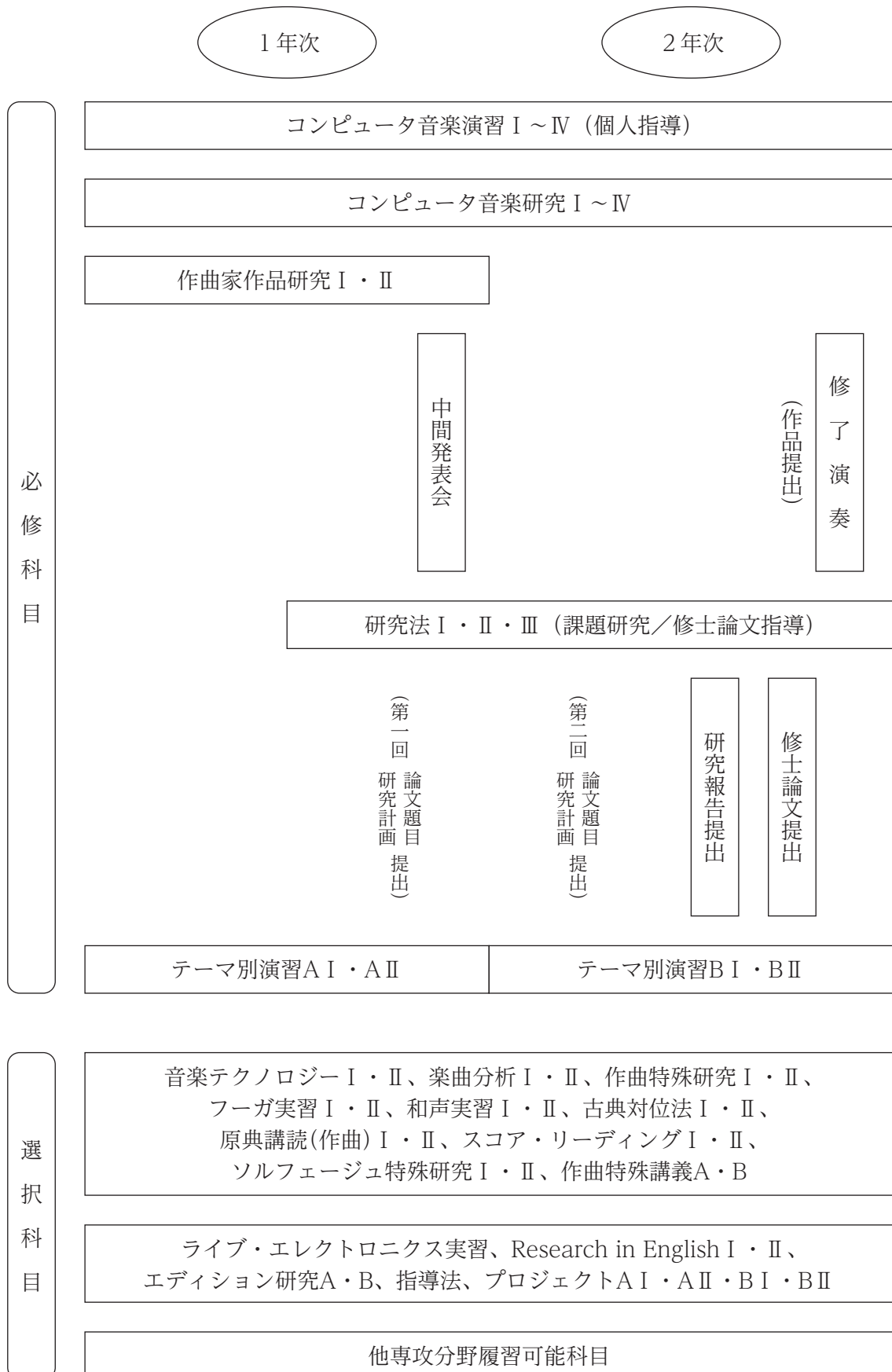
〈作曲専攻(音楽理論コース)〉



〈作曲専攻(ソルフェージュコース)〉



〈作曲専攻(コンピュータ音楽コース)〉 研究報告か修士論文を選択



〈音楽学専攻(音楽学コース)〉

	1年次	2年次
必修科目	音楽学演習 I ~ IV (個人指導)	
	音楽学研究法 I ~ IV (総合ゼミ)	
	(第一回論文題目提出)	(第二回論文題目提出)
		修士論文提出
	テーマ別演習A I・A II	テーマ別演習B I・B II
選択科目	音楽美学研究A・B、音楽民族学研究A・B、西洋音楽史研究A・B、アジア音楽史研究A・B、日本音楽史研究A・B、楽器学研究A・B、楽器音響学研究A・B、音楽療法特論 I ~ IV、音楽学特殊講義A・B、楽器・音響特殊講義A・B、音楽療法特殊講義A・B	
	エディション研究A・B、指導法、プロジェクトA I・A II・B I・B II	
	他専攻分野履習可能科目	



〈音楽学専攻(楽器・音響コース)〉

	1年次	2年次
必修科目	楽器・音響演習Ⅰ～Ⅳ（個人指導）	
	音楽学研究法Ⅰ～Ⅳ（総合ゼミ）	
	（第一回論文題目提出）	（第二回論文題目提出）
	修士論文提出	
	テーマ別演習AⅠ・AⅡ	テーマ別演習BⅠ・BⅡ
選択科目	楽器学研究A・B、楽器音響学研究A・B、音楽美学研究A・B、音楽民族学研究A・B、西洋音楽史研究A・B、アジア音楽史研究A・B、日本音楽史研究A・B、音楽療法特論Ⅰ～Ⅳ、楽器・音響特殊講義A・B、音楽学特殊講義A・B、音楽療法特殊講義A・B	
	エディション研究A・B、指導法、プロジェクトAⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ	
	他専攻分野履習可能科目	

〈音楽学専攻(音楽療法コース)〉

	1年次	2年次
必修科目	音楽療法演習 I ~ IV (個人指導)	
	音楽学研究法 I ~ IV (総合ゼミ)	
	(第一回論文題目提出)	(第二回論文題目提出)
		修士論文提出
	テーマ別演習A I・A II	テーマ別演習B I・B II
選択科目	音楽療法特論 I ~ IV、音楽美学研究A・B、音楽民族学研究A・B、西洋音楽史研究A・B、アジア音楽史研究A・B、日本音楽史研究A・B、楽器学研究A・B、楽器音響学研究A・B、音楽療法特殊講義A・B、楽器・音響特殊講義A・B、音楽学特殊講義A・B	
	エディション研究A・B、指導法、プロジェクトA I・A II・B I・B II	
	他専攻分野履習可能科目	

〈音楽教育学専攻〉

	1年次	2年次
必修科目	音楽教育学研究 I ~ IV (個人指導)	
	音楽教育研究法 I ~ IV	
	(第一回論文題目提出)	(第二回論文題目提出)
	修士論文提出	
	テーマ別演習A I・A II	テーマ別演習B I・B II
選択科目	音楽教育内容論A・B、音楽教育方法論A・B、音楽教育実践演習A・B、 音楽教育教材研究A・B、音楽教育学特殊講義A・B、 音楽教育実践特殊講義A・B	
	エディション研究A・B、指導法、プロジェクトA I・A II・B I・B II	
	他専攻分野履習可能科目	

## 18. 学位および資格

- 修了者には、修士（音楽）の学位を授与する。
- 高等学校教諭一種免許状（音楽）または中学校教諭一種免許状（音楽）取得者（取得資格のある者を含む）で、教科に関する科目を24単位以上修得し、修士課程を修了した者（修了見込者を含む）は、修了時に高等学校教諭専修免許状（音楽）または中学校教諭専修免許状（音楽）取得の申請ができる。

## 19. 教員組織

大学院入学後は下表より指導教員を選び、その指導を受けることになります。

2023年度 大学院担当教員一覧（予定）

専攻	分野	教員名	専攻	分野	教員名
声楽	楽	教授 秋山理恵	器楽	フルート	客員教授 佐久間由美子
		〃 加納悦子			非常勤講師 齋藤和志
		〃 久保田真澄			客員教授 辻功
		〃 黒田博			客員准教授 伊藤寛隆
		〃 澤畑恵美			非常勤講師 大和田智彦
		〃 下原千恵子			〃 エマニュエル・ヌヴェー
		〃 長島剛子			未定
		〃 福井敬			未定
		〃 本島阿佐子			教授 井手詩朗
		〃 山下浩司			〃 井川明彦
		准教授 清水華澄			非常勤講師 青木木昂
		〃 望月哲也			〃 安東京平
		特任教授 小泉恵子			〃 齋藤充広
		非常勤講師 須藤慎吾			〃 池田幸広
〃 高橋薫子	打楽器	教授 幸西秀彦			
〃 高松原有一		教授 矢田部一弘			
器楽	ピアノ	教授 梅本実子	作曲	楽	教授 今村央子
		〃 江澤聖子			〃 菊池幸夫
		〃 金子忠子			〃 栗山和樹
		〃 河原忠子			〃 丸山和憲
		〃 近藤伸子			准教授 足本憲治
		〃 進藤郁子			〃 今井慎太郎
		〃 久元祐子			〃 片桐健順
		〃 三木香子			〃 川島素晴
		〃 有森直樹			〃 渡辺俊哉
		准教授 有沢千秋			客員准教授 市川景之
		〃 奈良希愛			非常勤講師 斉木由美
		〃 瀨尾夕美			〃 林達也
		〃 堀江志磨			〃 平山晴花
		特任教授 山内のり子			音楽学
	〃 渋谷淑子	〃 阪上正巳			
	〃 花岡千春	〃 友利修			
	非常勤講師 遠藤志	〃 早稲田みな子			
	〃 青木高志	准教授 瀬尾文子			
	〃 漆原啓子	〃 中田朱美			
	オルガン	未定	〃 三浦雅展		
ヴァイオリン		教授 青木高志	〃 三宅博子		
		客員教授 漆原啓子	特任教授 吉成順		
ヴァイオラ		〃 久保田巧	〃 小岩信		
		未定	〃 小沼隆		
		客員教授 藤森亮一	音楽教育学	音	教授 津田正之
	〃 池松宏	准教授 伊藤仁美			
非常勤講師 早川りさこ	〃 高橋聖純	〃 瀧川淳			
准教授 高橋友太郎	〃 大友太				

